学びの広場

地域で学び、活動する
皆さんを応援します
北秋田市教育委員会

●公民館活動　●生涯学習
●文化振興　●学校　●スポーツ

バターもちをつくろう！
～大人と子どもの生涯学習サポートＤＡＹ～

北秋田地区生涯学習奨励員協議会が主催する生涯学習サポートＤＡＹ事業が、３月22日森吉コミュニティセンターで開かれ、北秋田市と上小阿仁村の児童ら24人が参加し、バターもち作りに挑戦しました。

参加者は、講師の齊藤イヨ子さん（阿仁）から、阿仁地域でバターもちが作られるようになった由来やバターもちの材料・作り方などを熱心に聞きながらメモをとっていました。

ふっくらとつき上がったもちは、講師や奨励員に手伝ってもらいながら小さく丸めて仕上げ、できたてのバターもちの味を楽しみました。

▲興味深くバターもちについての話を聞く参加者

スプリングコンサート
～浜辺の歌音楽館少年少女合唱団～

浜辺の歌音楽館少年少女合唱団の第22回スプリングコンサートが、３月30日森吉コミュニティセンターで開催されました。

前半は「赤い鳥小鳥」など成田為三作曲の曲をはじめ、一年間練習してきた合唱曲の数々が発表され、年長の団員による独唱も披露されました。

後半は趣を変えて、森吉中学校吹奏楽部によるテレビ人気アニメのテーマ曲や、美空ひばりメドレー、ＭＭＣによるコーラス、少年少女合唱団とＭＭＣのコラボによる「花は咲く」などが演奏され、来場者は「音楽」の彩る早春の午後のひとときを楽しみました。

▲合唱する浜辺の歌音楽館少年少女合唱団

世界遺産登録を願って
～カムバック縄文サーモン事業～

サケ放流事業「カムバック・縄文サーモン」が４月13日、伊勢堂岱遺跡近くを流れる湯車川で行われ、市民ら約30人が参加し、サケの稚魚約５万匹を放流しました。

この事業は、サケの放流をとおして湯車川をサケが遡上する川として、遺跡周辺の環境保護を図り、同遺跡の世界遺産登録推進に重要な周辺環境の保全を目的に行われたものです。

放流では、参加者がサケの稚魚の入ったバケツを持って川岸に並び「元気に戻ってきてほしい」と願いながら放流しました。サケは４～５年後に放流した河川に戻ってくるとされています。

▲湯車川に放流されるサケの稚魚５万匹

第5回おやかたさ集まるべ講座

問 長岐賢一 ☎090-6101-8906
申 七日市公民館 ☎66-2001

お伊勢参り旅日記から 長崎七左衛門の「道中記」を読む

日時 5月19日（日）14時より
会場 「おやかたの家」長岐邸
北秋田市七日市字囲ノ内4
※会場は10時より一般開放しています（当日限り）
講師 長岐純一氏　**入場料** 無料

公民館講座「救急講習会」

問申 合川公民館 ☎78-2114

各種応急手当や心肺蘇生法などの方法を学びます。

期日 5月29日（水）
時間 9時～11時
場所 合川体育館
講師 北秋田市消防本部
参加費 無料
持ち物 筆記用具　**定員** 25人程度
※動きやすい服装でご参加ください。

伊勢堂岱遺跡 一般公開の一時休止について

問 生涯学習課 ☎62-6618

今年度の伊勢堂岱遺跡の一般公開は、遺跡内環境整備工事のため公開できません。

浜辺の歌音楽館少年少女合唱団 団員を募集します

問申 生涯学習課 ☎62-6618

「浜辺の歌音楽館少年少女合唱団」は、郷土出身の作曲家・成田為三先生の作品を中心に、いろいろな曲を楽しく歌い活動しています。時代を越え、世代を越え愛されているメロディーを、自分たちの声で受け継いでいきましょう。

対象 小学校1年生～高校3年生
練習場所 森吉コミュニティセンター
練習時間 9時～12時（毎週土曜日）
参加費 無料（後援会費として月1300円集金しています）
※5月の練習は18日（土）からです
※見学も歓迎します

文化会館からのお知らせ

問 文化会館 ☎62-3311

平成26年1月14日～2月27日まで吊天井耐震補強工事のため大ホールが使用できなくなります。また、同期間に鷹巣図書館の冷暖房設備の改修工事を予定しています。

ふるさとの文化財 ―― 62

北秋田市指定有形文化財（絵画）
○「絹本着色涅槃図」

◇**所在地** 本城字館の下211
◇**管理者** 浄福寺

涅槃図（ねはんず）とは、お釈迦（釈尊）さまの入滅（亡くなられた）の情景を描いたもので、涅槃会の本尊として用いられ、多くの寺院で見られます。沙羅双樹のもとで涅槃に入る時の、頭は北に顔は西向きに、右脇を下に臥し、周囲に弟子をはじめ菩薩や天竜、鬼畜など泣き悲しむ様子を描いた絵です。絵の大きさは横151㎝、縦193㎝とかなり大きくとても鮮やかな感じがします。（涅槃経・講、涅槃像、涅槃門などと呼ばれる場合もあります）

作者は不明ですが、裏書によれば文化15年（1818年）2月、当時の念仏講中が寄付したことになっており、富裕な農民が寄付したと考えられています。

故奈良修介氏の見立てによると、作者は複数と思われ、絵画のできばえはとても良いと言われています。

▶絹本着色涅槃図

【裏書】
為七世父母二世安楽
願主　念仏講中　秋元喜藤次母、久蔵母、・・、十二所町石井周花内
向本城村、川井村
羽州秋田郡大阿仁本城村
大沢山浄福寺現任十一世寿山
文化15年戊寅2月

◇浄福寺

はっきりした記録はありませんが、もとは真言宗の寺院と言われ落合村（現合川李岱）羽立大沢山との関連も考えられ、応保元年（1161年）什器入と書いた長持が残っていたことから、かなり古い寺院と言えます。また、「金仏地蔵尊」は古く、古仏阿弥陀如来も立派な仏と言われています。寺の地内にあった胡桃の老木は盛土の上にあって、木柵で囲み、中に入ることを禁じていたそうです。

▽昭和59年3月21日指定文化財
▽資料／「本城と浄福寺」、「日本史辞典」、『広辞苑』、浄福寺奥山住職談　ほか
▽紹介者／北秋田市文化財保護審議会委員　照内捷二